

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

平成24年3月末	平成24年6月末	平成24年9月末見通し	平成24年12月末見通し
+20千トン [2317#] (100.9%)	-22千トン [2295#] (99.1%)	-12千トン [2283#] (99.5%)	-23千トン [2260#] (99.0%)
2278千トン(98.3)	2300千トン(100.2)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成24年3月末	平成24年6月末	平成24年9月末見通し	平成24年12月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は76,100円で前年比-7,700円、前期比では-1,900円。メーカーは値上げ姿勢を鮮明にし、市況改善に乗り出したが、市中の反応はいたって鈍く、値上げを受け入れる環境ではなかった。店売りでは需要のなさゆえ、安値折り合いも散見され、相場の先行きが懸念された。在庫減少となったが、販売との相対感で過剰感を払拭しきれず、年度明けを迎えることになった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は73,700円で前年比-8,200円、前期比では-2,400円。需要は出遅れたままで、メーカー値上げにも市場は動意せず、ジリ安状況を露呈していた。それに追い打ちを掛けるように一部メーカーの大幅値下げにより市場は弱気一色となった。それによりユーザーの値引き要請が強まり、粗利は低下し、さらには在庫の評価損、受注の手控えなどで採算が阻害された。	建設・土木関連需要は地域的なバラツキがあるが、徐々に出始めている。一方、製造業関連は芳しくない。建産機の落ち込みが明らかになり、自動車の生産計画は下方修正される模様だ。一般的に需要は停滞の域を脱せず、それを映して市況も弱含み傾向で、メーカー値上げにも反応は鈍い。在庫水準自体は高くないが、販売見合いという点で過剰感が払拭できない。このような環境下、販売業者は厳しい商売を強いられるだろう。	需要は前期より増加するが、建設関連と製造業関連では状況を異にしているため、扱い品種によって見通し感が変わってくるだろう。市況は横ばい見通し。期中での好転は期待薄であり、悪化も予想されることから、余分な在庫は持たず、むしろ減らしたい意向であろう。また、懸念されるのは与信不安の顕在化であり、地方筋で倒産が浮き生じている。販売業者は小なり小なり与信不安を抱えて営業しているのが実態である。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

「状況が悪いので、仕入れは最小限に止めたい」「在庫リスクが大きいので当面、買い繋いでいる」などの声がよく聞かれる。さらには、市況は弱含み横ばい、一部に先安感もある。このような状況なので、慎重な申込に徹し、余分な在庫をもたない姿勢が当分続くだろう。

4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 条鋼品種は、ここに来てスクラップ価格が再度下落傾向となり、全般的に一服、様子見気分となっている。秋口から商業施設、物流センターなどの案件は見えだしてはいる。自動車のエコカー助成金はまだ終了していないが、需要は落ちてきている。産機、建機も中国経済の低迷により需要減退している。関西は目立った大型物件がないなか、中小物件の秋需に期待したい。

(愛知) 8月お盆休み明け以降、荷動きは7月~8月前半と様変わり、減少となっている。ただし、各地域において防災対策の物件は出つつある。今後の需要の出方については全く不透明であるが、地震、津波対策を一刻も早く打ち出して、実行してほしいと願っている。